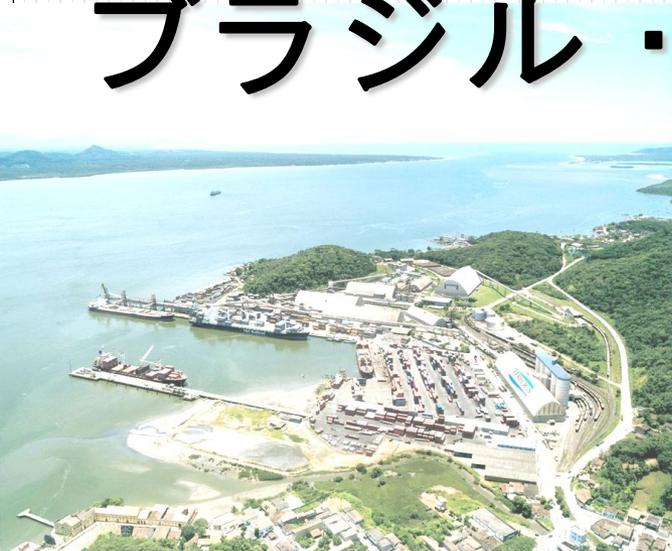


ブラジル・食料の現状と課題

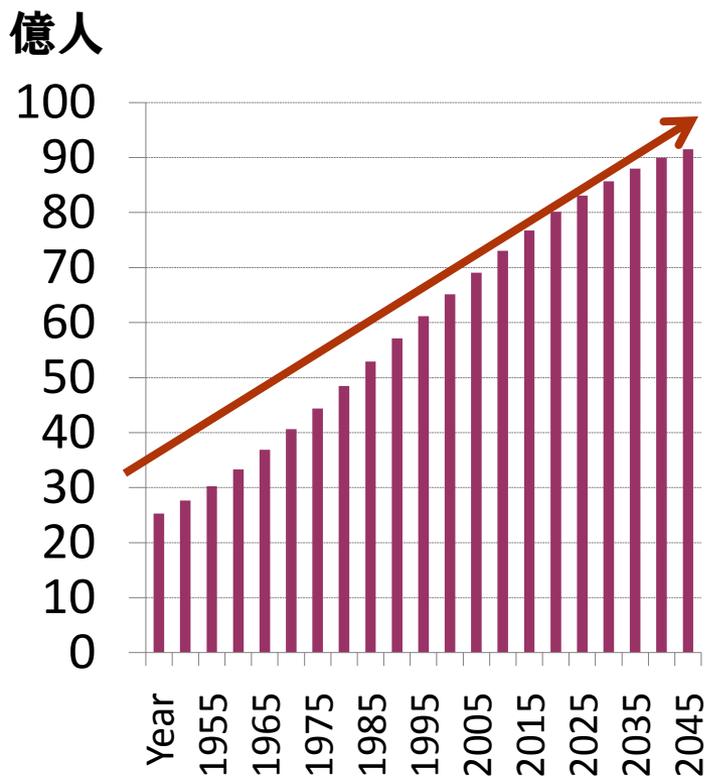


官民合同会議資料
(2009年10月19日 ブラジリア)

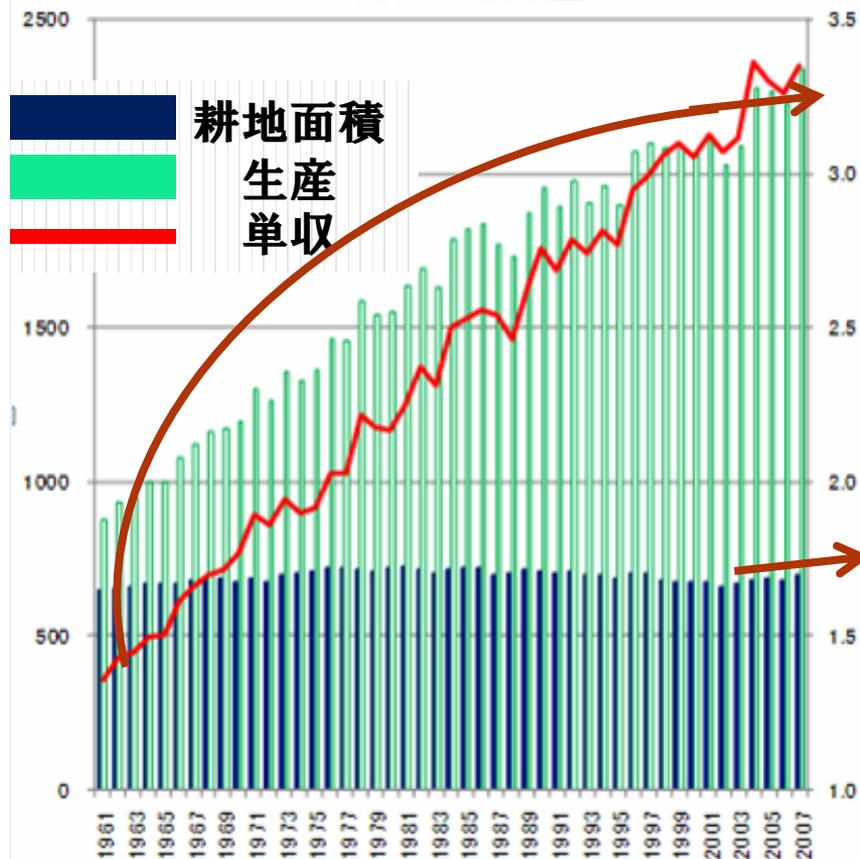
丸紅ブラジル会社

増加する世界人口と限られた耕作面積

世界の人口推移



穀物の耕地面積(百万ha)、生産(百万トン、左目盛)と単収(トン/ha、右目盛)



人口の伸びは変わらず⇔単収の伸びは鈍化傾向で推移

単収伸び率：1960年代3.0%（年率）→70年代2.0%→80年代1.7%→90年代1.3%

大豆・とうもろこしの需給逼迫

● 世界大豆需給

年度	86/87	91/92	96/97	01/02	02/03	03/04	04/05	05/06	06/07	07/08	08/09
供給量	143.75	157.18	186.58	272.9	295.3	283.48	317.07	332.07	358.89	362.18	338.78
需要量	123.55	137.39	170.64	237.38	252.44	245.66	269.59	278.82	296.45	309.27	296.73
期末在庫	20.21	19.79	15.94	35.53	42.86	37.83	47.49	53.25	62.44	52.91	42.05
在庫率	16%	14%	9%	15%	17%	15%	18%	19%	21%	16%	14%

● 世界とうもろこし需給

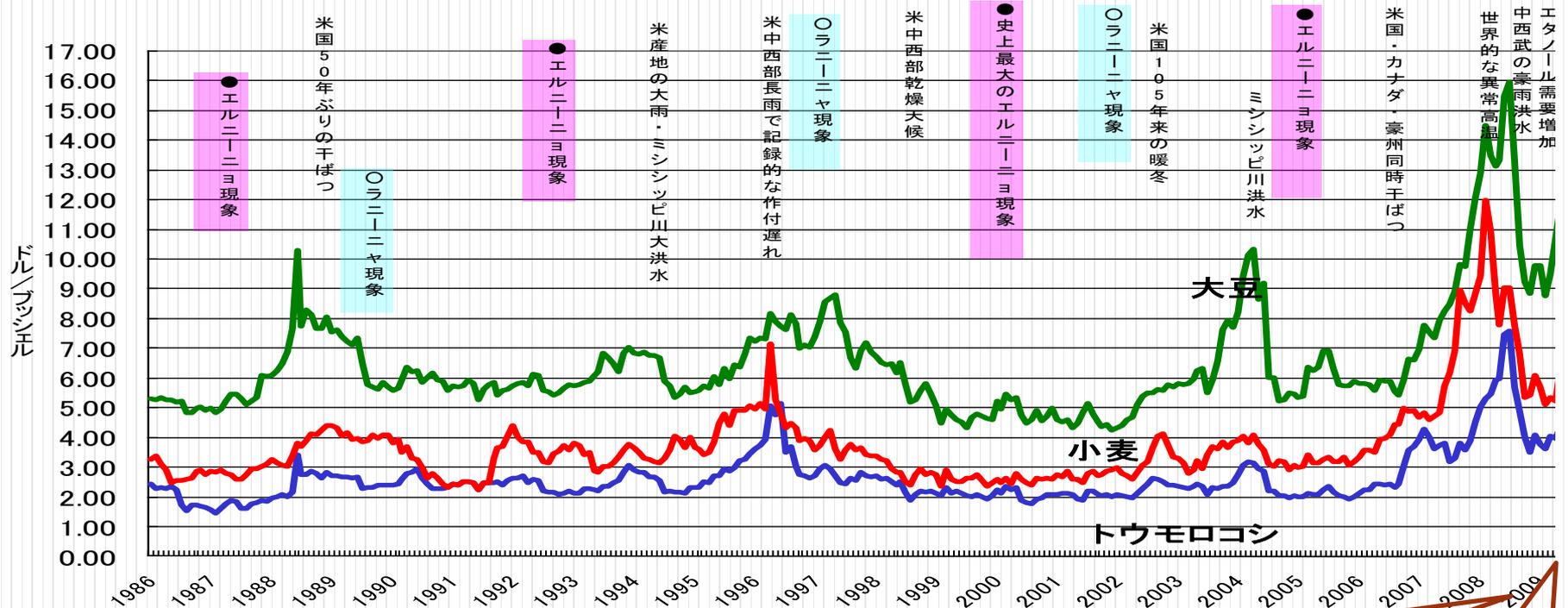
年度	86/87	91/92	96/97	01/02	02/03	03/04	04/05	05/06	06/07	07/08	08/09
供給量	705.6	697.27	790.49	847.4	829.78	830.25	896.96	909.59	921.84	999.34	999.79
需要量	500.74	556.43	624.9	696.19	703.31	725.35	765.47	785.09	816.38	869.33	854.21
期末在庫	204.86	140.85	165.58	151.21	126.47	104.9	131.49	124.49	105.46	130.27	146.84
在庫率	41%	25%	26%	22%	18%	14%	17%	16%	13%	15%	17%

単位：100万トン

毎年在庫水準が低下傾向

シカゴ定期過去20年の動き

シカゴ穀物相場(期近・月末値)の推移



08年9月の金融危機=ファンドの資金流出等から急落するも、徐々に金融危機前の水準に戻り、**高値圏の取引が続く見通し**

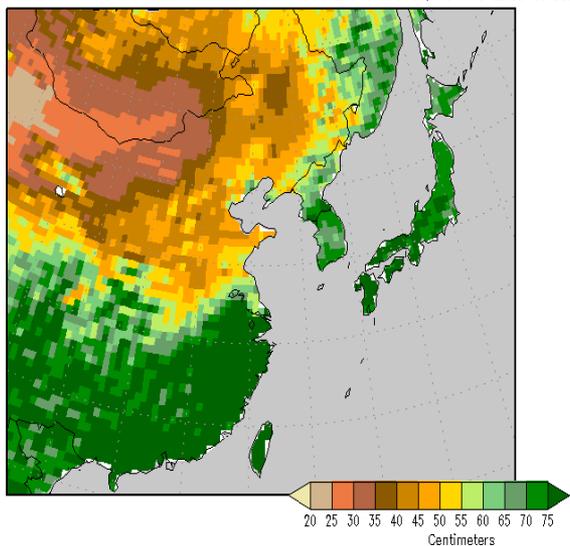
大豆：10ドル
とうもろこし：4ドル

大豆・とうもろこしの需給逼迫

- 今年の世界の異常気象
 - 1月 アルゼンチン早魃(天気図)
成長期に雨が全く降らず、
大豆・とうもろこし・小麦が
大減産(35-40%減)。
 - 8月 中国早魃 (土壌水分表)



Initial Soil Moisture Liquid Water in top 2 meters of soil
Valid time: Wed, 19 AUG 2009 at 00Z



例年に比べ、降雨量が大幅に減少。
大豆・とうもろこし・小麦が減産。

需給逼迫の要因①

新興需要国との競争が激化

● 中国の大豆の需給推移

「爆食」

需要が5倍に

年度	90/91	95/96	00/01	05/06	06/07	07/08	08/09
供給量	11,001	14,295	31,815	49,367	49,166	54,516	60,445
-うち輸入	1	795	13,245	28,317	28,726	37,816	40,700
需要量	11,001	14,295	26,905	44,894	46,043	49,818	51,335
期末在庫	-	-	4,910	4,473	3,123	4,245	8,690
在庫率	0%	0%	18%	10%	7%	9%	17%

● 中国のとうもろこしの需給推移

年度	90/91	95/96	00/01	05/06	06/07	07/08	08/09
供給量	169,551	201,450	229,888	175,982	186,871	188,482	194,982
需要量	86,730	101,357	127,516	140,727	150,269	149,600	158,500
-うち輸出	6,880	157	7,276	3,727	5,269	600	500
期末在庫	82,821	100,093	102,372	35,255	36,602	38,882	36,482
在庫率	95%	99%	80%	25%	24%	26%	23%

需要が2倍に

需給逼迫の要因①

新興需要国との競争が激化

「暴食」

● 世界の大豆輸入国ランキング

突出した存在感

年度	2001/ 2002	2002/ 2003	2003/2 004	2004/ 2005	2005/ 2006	2006/ 2007	2007/ 2008	2008/ 2009
中国	10.385	21.417	16.933	25.802	28.317	28.726	37.816	40.700
EU全域	18.675	16.943	14.675	14.539	13.937	15.291	15.123	13.000
日本	5.023	5.087	4.688	4.295	3.962	4.094	4.014	3.450
メキシコ	4.510	4.230	3.797	3.640	3.667	3.844	3.614	3.100
台湾	2.578	2.351	2.218	2.256	2.498	2.436	2.149	1.830
その他	13.214	12.886	11.688	12.941	11.748	14.671	15.446	13.155
合計	54.385	62.914	53.999	63.473	64.129	69.062	78.162	75.235

(54%)

7 単位：1000トン

年々輸入量は拡大、世界の輸入量の半分以上の占めるに至る

需給逼迫の要因②

エネルギーとの原料争奪

米国USDA10月度需給発表(とうもろこし)

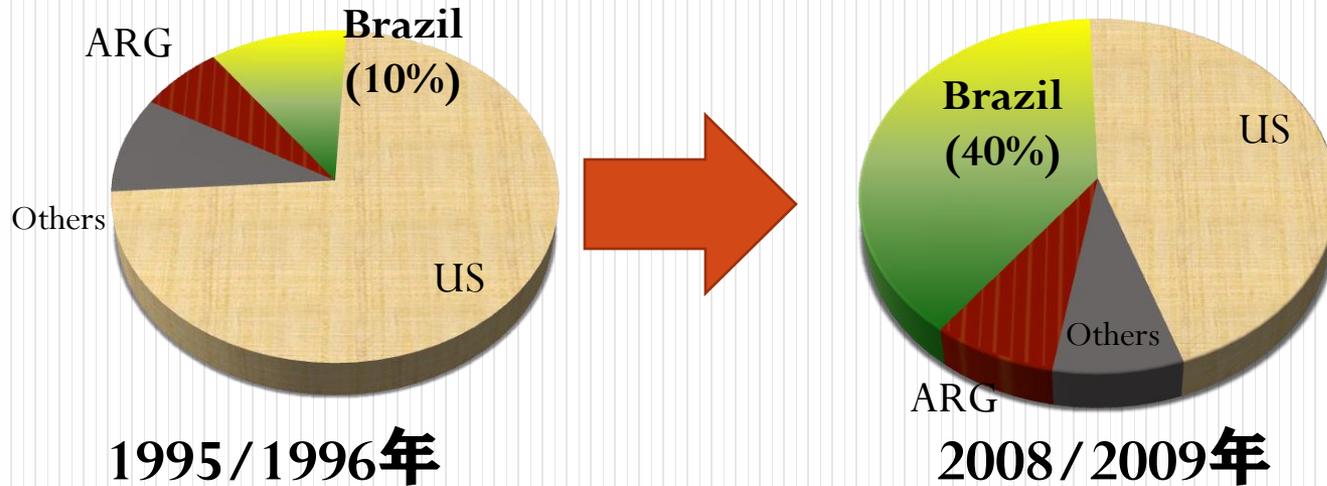
年度	03/04	04/05	05/06	06/07	07/08	08/09	09/10
供給量	284.24	324.53	336.23	317.87	364.81	348.99	373.45
需要量	259.90	270.83	286.27	284.75	323.53	306.46	330.98
-うちエタノール	29.67	33.61	40.72	53.77	76.86	93.98	106.68
-うち輸出	48.26	46.18	54.21	53.98	61.55	47.20	54.61
期末在庫	24.33	53.70	49.96	33.12	41.25	42.52	42.47
在庫率	9%	20%	17%	12%	13%	14%	13%

単位：100万トン

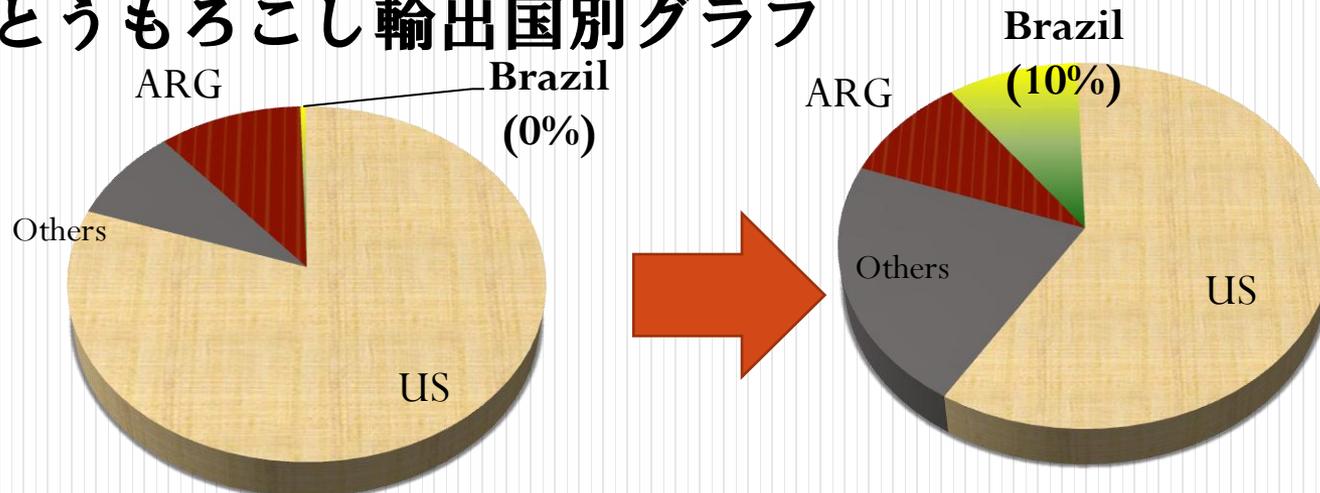
エタノール需要がこの6年で3倍以上。
輸出需要を完全に上回り、輸出量の約3倍へ向かう。

世界の中でのブラジル農業の位置づけ

大豆輸出国別グラフ



とうもろこし輸出国別グラフ



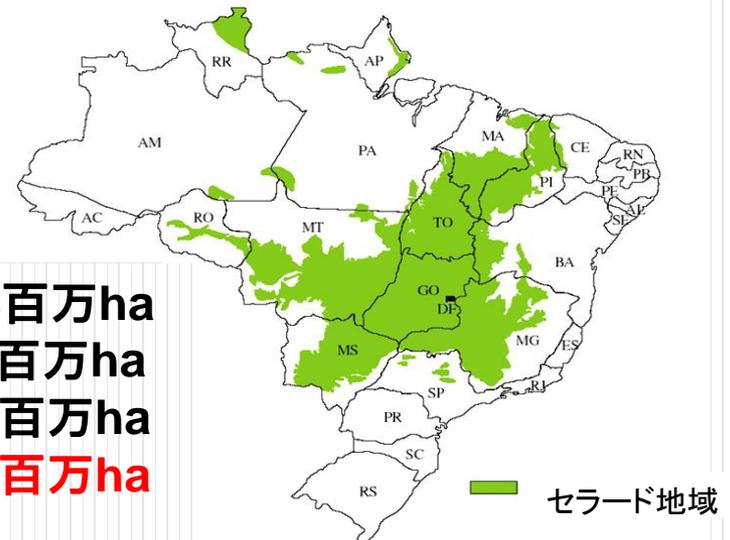
ブラジル農業の可能性～セラード～

- ブラジルには、日本国土面積(37.7百万ha)の2.8倍の耕作可能地がある。

総面積	853.7百万ha
既耕作面積	78.8百万ha
牧草地面積	199.2百万ha
その他	471.4百万ha
未耕作面積	104.2百万ha

- その多くは広大なセラード地域に位置し、さらに生産量増加の余地がある。

セラード地域の地図と耕作可能面積



総面積: 204百万ha
 全耕作可能面積: 127百万ha
 -既耕作面積: 61百万ha
 -未耕作面積: 66百万ha

日本の「食料・買い負け」の危機

- ❖ 新興諸国(中国等)の「爆食」
- ❖ 開発途上国(アフリカ・アジア等)の人口増による消費増

➡ 世界食料危機

日本の食料安全保障確保の観点から

- 世界最大の食料供給基地となりつつある、
ブラジルとの関係強化
- 日本政府・日本企業主導による供給ルートの確保
(セラード開発の苦い過去)
(穀物メジャーに頼らない)
- 最大需要国 中国向け物量の利用

食料安全保障確保への日伯官民連携

1. インフラ整備への支援(港湾・鉄道・道路・集荷設備) → 民間企業投資への官による直接投融資
2. 公的金融によるファイナンス
 - 農業融資(作付資金・輸出資金)
 - インフラ融資
3. 日伯・官民合同による農業ビジネス専門機関・専門家の設立・育成